

事務事業 No./名称	■サービス部門 教育-30 □支援部門		相談室事業						
主管課	教育センター	関連課							
分野名	学校教育								
目標 (目標値)	いじめ・不登校、ひきこもり等の問題解決に向け、個々のもつ問題に対し、相談者がより満足度を得られるよう、他機関との連携を図った相談体制、支援体制の確立・充実を目指す。								
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考				
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳) ・対象者数は件数				
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯					
事業の対象者数	2,096人	2,195件	2,170件						
運営資源状況	決算値(千円)	18,776	18,034	17,757					
	(国・県)		8,694						
	(負担金等)	1	1						
	(一般財源)	18,775	9,339	17,757					
	人員配置数	2.9	2.9	3.0					
	人件費(千円)	23,774	26,005	27,595					
	協働のパートナー								
事務事業運営経費	総事業費(千円)	42,550							
	市民1人当りの経費(円)	240							
	対象者1人当りの経費(円)	20,301							
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒	平塚市	藤沢市	逗子市	茅ヶ崎市	小田原市	伊勢原市	座間市	三浦市
	相談事業担当	子ども教育相談C	教育相談C	教育研究所	教育C	教育C	教育C	教育研究所	学校教育課
	教育支援事業担当	子ども教育相談C	教育指導課	教育研究所	教育C	教育指導課	教育C	教育研究所	学校教育課
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)		
目標	○	目標値	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	機関連携を基盤に、質の高い相談・支援の実施	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	前年度に比し概ね質の高い相談・支援を実施した	前年度に比し概ね質の高い相談・支援を実施した	前年度に比し質の高い相談・支援を実施した	前年度に比し質の高い相談・支援を実施した	スクールソーシャルワーカーを配置し、より質の高い相談・支援を実施した		

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
相談室事業	380千円	①効率性○ ②妥当性○ ③有効性○ ④公平性○		⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	相談室維持管理に関するもの			
相談指導事業	9,654千円	①効率性○ ②妥当性○ ③有効性○ ④公平性○		⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	教育相談員、心のふれあい相談員、スーパーバイザー等、相談に関するもの			
相談指導事業	2,536千円	①効率性○ ②妥当性○ ③有効性○ ④公平性○		⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	スクールソーシャルワーカー、訪問相談に関するもの			
教育支援教室事業	6,206千円	①効率性○ ②妥当性○ ③有効性○ ④公平性○		⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	不登校児童・生徒のための教育支援教室(ひだまり)に関するもの			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	多様化・複雑化してきている相談者の問題に対応するための多職種、多機関との更なる連携と継続した支援体制の構築と維持		
課題解決のための取組	スクールソーシャルワーカーを配置し、問題を抱えた児童生徒の置かれた環境への働きかけを行う。	取組の結果	□解決 ■未解決
未解決の課題	多様化・複雑化する相談者の問題にきめ細かく対応するため、スクールソーシャルワーカー等の配置時間数を増加するなど、多様な支援体制を強化すること		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
	➡	②妥当性 ○		平成22年度に開始した近隣フリースクール等との連携も含め関連する諸機関、市長部局との連携強化を図るとともにスクールソーシャルワーカー等の配置時間数を増加するなど、多様な支援体制の充実を目指す。	課長等名	
		③有効性 ○			A	教育センター所長
		④公平性 ○				越川雅之

